

## 論述ブースト No.16

## 生殖補助医療・不妊治療を論じる

## —— 技術の可能性・倫理・当事者支援を3軸で

**目標：**生殖補助医療（ART）・不妊治療というテーマを「技術の可能性・倫理的課題（子どもの権利・代理母）・当事者の心理的支援」の3軸で構造的に論じる力を養う。

## 授業の仕掛け（直感への衝撃）

**導入：**「不妊治療に保険が適用されたのはよいことですか？」→「はい」と即答する生徒が多い。しかし保険適用によって①技術の標準化②治療の過剰化③当事者への精神的圧力という新たな問題も生じている。

**核心：**生殖補助医療の3軸：①技術的可能性（IVF・PGT・精子卵子提供）②倫理的課題（子どもの出自を知る権利・代理母・多胎リスク）③当事者支援（不妊治療の精神的負担・社会的支援）

## 採点者の視点

## 採点者はここを見ている —— 生殖補助医療・不妊治療・倫理で合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

生殖補助医療・不妊治療・倫理では、**技術・倫理・当事者支援の3軸根拠**が答案の質を大きく左右します。

## ② 生殖補助医療・不妊治療・倫理で採点者が見ているポイント

「技術の可能性・倫理的課題・当事者支援の3軸を区別して論じた答案」が採点者に「論理的に整理している」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所